

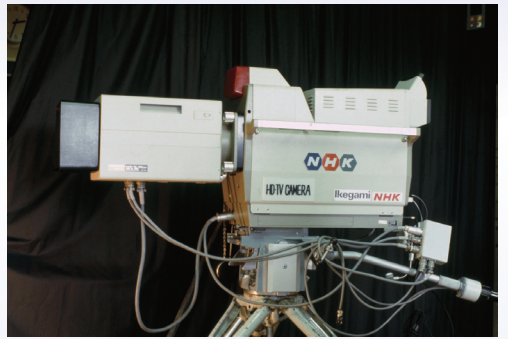
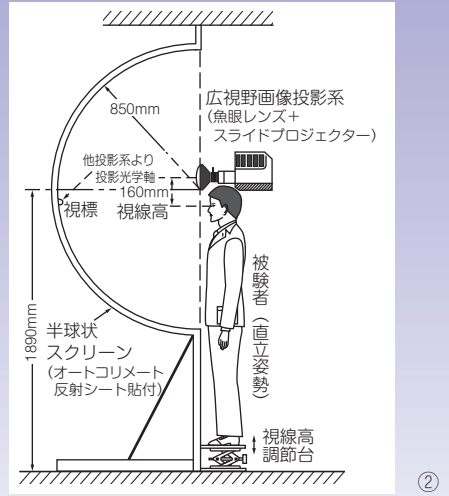
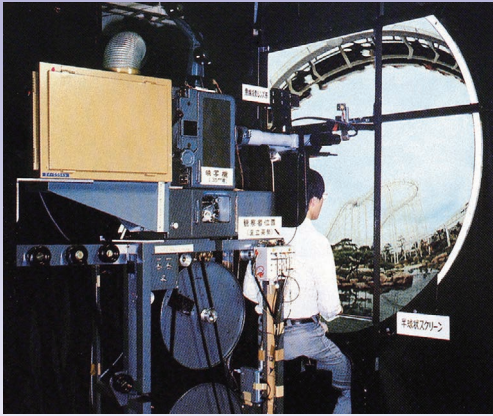


①

ハイビジョン方式の研究開発は、1964年（昭和39年）に日本放送協会放送技術研究所で開始されました。人間の視覚特性や心理効果の研究と技術開発を両輪として進め、単に高精細なだけでなく、臨場感を測る心理実験により視角は30度以上が好ましいことを明らかにし、その場合に視力1.0の人が走査線を判別できないことや標準テレビ方式との互換性を考慮して、走査線数1125本を導き出しました。この本数は、国際電気通信連合無線通信部門により2000年に世界標準として採用されました。機器開発については、1970年の同研究所の公開で、1.5インチピコン撮像管を使用したテレビカメラおよび27インチ白黒ブラウン管を用いたハイビジョンが、初めて展示されました。また、1980年に最初の標準型ハイビジョンカメラが、1998年には現在の薄型テレビの先駆けとなる家庭用の大画面ハイビジョンディスプレイが開発されました。

ハイビジョン方式は、より高品質な映像体験を視聴者に提供し、放送文化発展に資するとともに、大画面テレビ、ビデオカメラなどの家電産業の発展に大きく寄与しています。放送以外にも、映画、医療や科学分野など幅広い映像産業の基盤となっており、デジタルへの進化、放送と通信の融合を取入れることで、より便利なメディアとして人々の生活向上や社会発展に貢献しています。

- ☆顕彰先 : 日本放送協会 放送技術研究所
- ☆展示場所 : 〒105-0022 東京都港区愛宕二丁目1番地1号  
(NHK放送博物館)
- ☆ホームページ : <http://www.nhk.or.jp/str1/>
- ☆アクセス(最寄駅) : 東京メトロ日比谷線 神谷町駅より徒歩8分



(写真提供：日本放送協会)

- ① ハイビジョン
- ② 広視野効果測定装置
- ③ 1970年の技研公開
- ④ 最初の標準型ハイビジョンカメラ
- ⑤ 家庭用大画面ハイビジョンディスプレイ開発品

②

③

④

⑤